

インターバンクの声（2014年7月29日）

週明けの海外市場は、火曜日以降に米国や中国などの重要指標やイベントが控えていることもあり穏やかな取引に終始した。今週市場が最も注目するのは、どうしても金曜日の米雇用統計の発表なのだろうが、少なくともその次に気にするのが夏休み前最後の米連邦公開市場委員会（FOMC）になるのが普通。

しかし、今週は同じ日に予定されている米第2・四半期 GDP 速報値への注目度のほうが高いようだ。当初、悪天候の影響を受けた第1・四半期の弱い成長から、第2・四半期は大幅な回復が見込まれていたのだが、どうも予想されていたほどの回復とはなっていないとの懸念があるらしい。仮に実際の発表が弱ければ、雇用統計の発表を待たずに一旦ドル売りの圧力が加わるとのシナリオもあるようだ。まさかとは思うが、FOMCで資産買い入れ縮小が今月は見送られるとの発表でもあれば、市場は右往左往することになるだろうが、現実はやはり全て想定通りに進んで無風のまま雇用統計を迎えることになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。